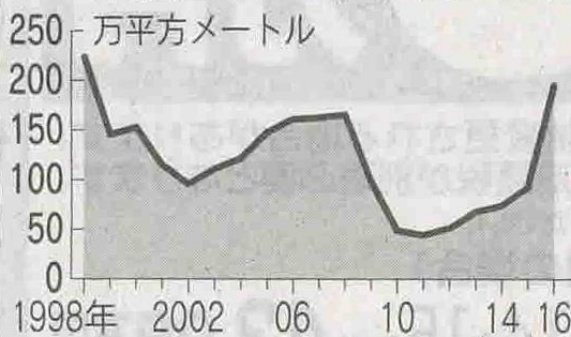


ホテル着工、昨年2倍超 床面積、訪日客増加受け

ホテルの着工が急増している。国土交通省によると、2016年の宿泊業の着工床面積は前年比2・1倍の約196万平方メートルだった。床面積は18年ぶりの大きさ。訪日外国人客の増加を受けて、東京や大阪を中心にホテルの新設計画が相次いだ。東京のホテル不足は解消に向かうとの見方が出ているが、大阪はなお

ホテル着工は18年ぶり高水準



不足している。観光庁によると、16年11月の宿泊施設の稼働率

は東京都と大阪府で予約が取りづらいとされる80%を上回った。ビジネスホテルに限ると、13都府県が80%超の満室状態だ。16年の新規着工は1482棟、工事費の予定額は6332億円に達した。1棟あたりの面積や工事費が伸びており、大型物件が増えているようだ。

一部の地域ではホテル不足が解消する見通しだ。みずほ総合研究所が20年のホテル需給を試算したところ、昨年8月時点の標準シナリオで東京は4千室の不足だったが、今年1月時点では不足が解消した。

もっとも、1月時点の試算でも大阪は5千1万6500室が不足する見通し。

建設業の人手不足で、予定した開業時期がずれ込むと、さらに深刻なホテル不足が発生する可能性もあるという。